

## 心理実習

[実習] 第4学年 前期 選択 2単位

《履修上の留意事項》 本科目を履修するためには、心理的アセスメント（2年次開講）、および心理演習（3年次開講）の両方の単位を修得していることを要する。また、公認心理師国家試験を受験するためには本科目の単位修得が必須である。

本科目は、学内での事前事後学習と学外実習からなるが、必ずしも特定の曜日や時間での開講とはならず、科目の特性上、変則日程で行われる。履修希望者の状況によっては、6講目に開講することもありうる。特に、学外実習では、実際に外部機関での実習が行われるが、実習日程は実習施設の受け入れ状況に基づき決定される。そのため、実習日程は個々で異なるほか、決定した日時での実習参加が必要となる。

なお、心理実習Ⅰの単位取得をしていない者は、後期開講（選択）の心理実習Ⅱを履修できない。

《担当者名》 本谷 亮 (motoyan@hoku-iryo-u.ac.jp) 富家 直明 百々 尚美 野田 昌道 柳生 一自 今井 常晶  
金澤 潤一郎 西郷 達雄 関口 真有 上河邊 力 安喰 智美（非常勤講師）

## 【概要】

心理実習では、これまでに講義や演習などで学習してきた知識や技術をふまえて、主要5分野（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働）の施設で、見学等による実習を行いながら、次の（ア）から（ウ）までに掲げる事項について、基本的な水準の修得ができるようになることを目的とする。

（ア） 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

（イ） 多職種連携及び地域連携

（ウ） 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

特に、心理実習Ⅰでは、学内実習を中心として基本的知識や技術の整理、定着を目指す。また、産業・労働分野、司法・犯罪分野における見学実習にて上記項目の修得を目指す。

## 【学修目標】

- ・ 各実習施設の理念、職域、機能、業務内容を理解する。
- ・ 公認心理師としての職業倫理、職責、法的義務、および実習の基本的な心構えを理解する。
- ・ 適切な実習課題・計画、実習日誌の作成方法を身につける。
- ・ チームアプローチ、多職種連携及び地域連携の実際を理解する。
- ・ 連携において、公認心理師として求められる役割を理解する。
- ・ 社会人としての振るまい、実習に際して身につけておくべきマナーや礼儀を身につける。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1・2	ガイダンス	実習の目的、内容、進め方の説明を受け、実習を通して身につけるべき態度、姿勢、知識、技能について学ぶ。	本谷 亮 関口 真有 西郷 達雄 上河 邊力
3～5	実習課題・計画、実習日誌の作成	実習課題・計画、実習日誌の必要性、作成における留意事項について学ぶ。また、適切な実習課題・計画、実習日誌の作成方法について、演習を通して学習する。	関口 真有 本谷 亮 西郷 達雄 上河 邊力
6～8	職業倫理、法的義務、連携	公認心理師としての職業倫理、職責、法的義務、および多職種連携及び地域連携の実際について学ぶ。また、連携において、公認心理師として求められる役割について学習する。	本谷 亮 関口 真有 西郷 達雄 上河 邊力
9～11	保健医療領域の実際 1	精神科において公認心理師が必要な知識や技術について学ぶ。また、多職種連携の実際を理解する。	本谷 亮 関口 真有 西郷 達雄 上河 邊力

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
12・13	保健医療領域の実際 2	精神科において公認心理師が必要な知識や技術について学ぶ。また、精神科臨床の実際を理解する。	柳生 一自 本谷 亮 関口 真有 西郷 達雄
14・15	福祉領域の実際	福祉領域（児童臨床、発達相談、発達障害）において公認心理師が必要な知識や技術について学ぶ。また、福祉領域の臨床の実際を理解する。	今井 常晶 金澤 潤一郎 西郷 達雄 上河邊 力
16・17	教育領域の実際	教育領域（学校現場）における公認心理師の役割、および同領域で公認心理師が必要な知識や技術について学ぶ。また、教育領域の臨床の実際を理解する。	富家 直明 西郷 達雄 金澤 潤一郎 上河邊 力
18・19	産業領域の実際	産業領域における公認心理師の役割、および同領域で公認心理師が必要な知識や技術について学ぶ。また、教育領域の臨床の実際を理解する。	西郷 達雄 本谷 亮 関口 真有 上河邊 力
20・21	司法・犯罪領域の実際	司法・犯罪領域における公認心理師の役割、および同領域で公認心理師が必要な知識や技術について学ぶ。また、教育領域の臨床の実際を理解する。	野田 昌道 関口 真有 西郷 達雄 上河 邊力
22～24	実習施設の特徴	各実習施設の理念、職域、機能、業務内容を学習する。	本谷 亮 関口 真有 西郷 達雄 上河 邊力
25・26	実習の事前準備	実習に先立って必要な知識や技術について、自身の実習先の特徴や実習施設における公認心理師の役割を調べ、まとめる。また、実習担当教員と事前学習内容を確認し、実習開始までに必要な準備を進める。	本谷 亮 富家 直明 百々 尚美 野田 昌道 柳生 一自 今井 常晶 金澤 潤一郎 西郷 達雄 関口 真有 上河邊 力 安喰 智美（非常勤講師）
27・28	学外実習（司法・犯罪分野）	司法・犯罪分野の学外施設にて見学実習を行う。	本谷 亮 富家 直明 百々 尚美 野田 昌道 柳生 一自 今井 常晶 金澤 潤一郎 西郷 達雄 関口 真有 上河邊 力 安喰 智美（非常勤講師）
29・30	学外実習（産業・労働分野）	産業・労働分野の学外施設にて見学実習を行う。	本谷 亮 富家 直明 百々 尚美 野田 昌道 柳生 一自 今井 常晶 金澤 潤一郎 西郷 達雄 関口 真有

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
			上河邊 力 安喰 智美 (非常勤講師)

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

レポート、および実習関連資料の作成（100％）

- ・レポート等の提出資料は期限厳守である。

【教科書】

実習要綱

【参考書】

公認心理師養成のための保健・医療系実習ガイドブック、鈴木伸一（編）、北大路書房、2018年

公認心理師技法ガイド、下山晴彦（編集主幹）、文光堂、2019年

【備考】

- ・原則、全ての回に出席することを前提とする。
- ・実習先の決定後は、主に実習担当教員と連絡をとり、指導を受けながら事前学習、本実習、事後学習を進める。
- ・実習要綱、出勤簿、印鑑は各回必携である。
- ・実習時間は、全ての学習を含めて80時間以上とする。

【学修の準備】

- ・実習要綱を確認し、内容を理解しておくこと（30分）。
- ・事前配布資料や参考資料を熟読し、理解すること（60分）。
- ・実習日誌を作成し、実習内容を理解し、内省を深めること（60分）。
- ・講義資料や自分で調べた内容をもとに課されたレポート課題、実習事前学習（実習に必要な知識・技術、姿勢、および施設の概要）に取り組むこと（90分）。
- ・公認心理師科目として取得してきた科目で学修してきた内容を適宜、復習し、理解すること（60分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP4 .公認心理師の活動に関連する知識・技術を修得している。

DP5 .対人支援における多職種連携の重要性を認識している。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

【ICTの活用】

学習教材（授業資料）の配信や学習課題の提示ではGoogle Classroomを利用する。

また、講義や実習の一部は、zoomを用いたオンラインで実施する場合がある。詳細は、講義内で説明する。

【実務経験】

公認心理師：本谷 亮 冨家 直明 百々 尚美 野田 昌道 柳生 一自 今井 常晶 金澤 潤一郎 西郷 達雄 関口 真有 上河邊 力 安喰 智美

精神科医：柳生 一自

【実務経験を活かした教育内容】

各施設における臨床実践での経験を交えて実習指導を展開する。